

ASUたちばな会報

第1号（平成28年10月発行）

会長就任のご挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・	原 康二	1
前会長あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・	兼元博史	2
「生き甲斐」とは・・・・・・・・・・・・・・・・	福井俊彦	4
雑感・・・・・・・・・・・・・・・・	三村昌勢	5
ヤングシルバーとして・・・・・・・・	横江嘉明	7
事務局より・・・・・・・・	成瀬正直	8

会長就任のご挨拶

原 康二

平成 28 年度から、会長をお引き受けすることになりました。私は、平成 9 年に三河歯科が創設されたときに、教頭として赴任しました。平成 24 年までの 16 年の勤務になります。三河歯科在職中には、当初は経済文化専門学校、その後は大学の通信教育部、また三河高、愛知産業大学の先生方に大変お世話になり、誠にありがとうございました。

初代の会長である兼元先生を中心に、理事、監事、事務局など多くの先生方が努力され、たちばな会の基礎をお作りいただきました。平成 23 年にこの会が創設されてから、学園行事への参加、総会・新年会の開催などを行ってきました。それらを引き継ぐとともに、「ASU たちばな会報」の発行、規約の見直しなどを進めていきたいと思っています。よろしく願いいたします。

退職して 3 年を過ぎ、生活のペースが安定してきました。日々、「やることある」、「行くところがある」ように心がけています。その一つとしてなるべく歩くようにしています。私は山(自然)が好きで、山歩きを時々していました。最近は気力・体力がなくなり、電車の駅からいける里山歩きを楽しんでいます。よく行くコースをご紹介します。

1. JR 中央線「定光寺駅」から、道樹山、弥勒山。ゆるやかな尾根歩き
2. 名鉄・広見線「善師野駅」から、鳩吹山、継鹿尾山
また、「明智駅」、「御嶽駅」などから中山道を歩くのも面白い。
3. 近鉄・養老線「養老駅」から、養老山、東海自然歩道

会報の発行についてお願いいたします。多くの会員からご投稿いただき、老後に役立つ、楽しい会報をお送りできればと思います。形式として、1 ページ 36 文字×30 行、フォント 12 でお書き下さい。原稿はメールで事務局へお送りください。

前会長あいさつ

兼元 博史

地球温暖化のせいで地球の温度が上昇し、地球のどこかで氷河が少しずつ溶けだし、やたらと突風・たつまきが起こり、大きな津波や地震が起こり、そのために、地球全体に肩こり症状のごとき現象が起きています。また、科学技術の発展のおかげとはいえ、住み易くなった反面、車をはじめ、特にTV、パソコン、スマホ、タブレットなど、逆に人間の生活を難しくする材料が多く出て来ているのは、自ら首を絞める現象ではないかとひとり頭を悩ませています。

さて、「ASUたちばな会」会長時代はお世話になりました。

平成23年から5年間、会長をおおせつかりしましたが、特に24年度はふがない状態でした。これは年甲斐もなく野良仕事にせいを出し過ぎ、水分補給を怠ったことが原因で熱中症にかかり、3ヶ月もベッド生活を強いられました。とても総会開催どころでなく、ウォーキングを始めて、1キロ、2キロ、・・・と、元へ戻るまでも、とても人に話しても信じて貰えないかも・・・の状態が続きました。熱中症のこわさを思い知らされたわけです。

第1回、第5回はともかく、第2回「ASUたちばな会」総会は、大学の開学記念の記念行事に便乗させていただくなどで、とにかく這々の体でありました。愛産大工業高校、三河高校などの創立記念行事に救われたのも、ことのほか大きかったと思っております。

敢えて記述させていただくとすれば、25年度、26年度に亘って、大学の原山祭で「健康増進タスポニー教室」を実施させていただいたことです。三河高の部活生、大学の中国留学生の参加に助けられ、また、法人事務局の特別なご配慮も得て、何とか格好だけはつけることができました。ただ、学園職員、その家族の参加がゼロに等しく、本来の目的からは大分かけ離れたたスタイルになったことは大いに反省すべきと思っ

ています。事前の啓蒙のやり方、地理的条件等の考慮が欠けていたなどでしたが、これとて取り組みよう次第では十分に健康教室として、考えてもよい材料ではないかと思えます。

で余談になるかも知れませんが、本来の任務からかけ離れ、母校（工業高校と三河高校）の野球応援で、瑞穂、小牧、豊橋、岡崎、豊田等の球場へ観戦（応援）をさせて頂いたことです。熱中症には十二分に警戒し、ペットボトル必携で暑さとの戦いに挑んだつもりです。グラウンドでプレーする選手たちも大変だったでしょうが、コンクリートのネット裏の観戦も大変でした。生来のスポーツ好きが手伝ってくれたおかげでありましょうが、特に昨年度は、同日の同球場で愛産大の工業と三河の両高校の観戦が出来たのは、平成8年の三河高校の甲子園出場での応援に行けたことは別として、超ラッキーとしか言いようがなく、暑さも吹っ飛ばす思いでした。今年も愛知大会の幕が切って落とされました。2校のゾーンこそ違え、この先、同様な巡り合わせが幾度となくあるかもしれませんが、気力、体力の続くかぎり、「愛校精神」を発揮し、母校応援に馳せ参じたいと思っています。

いよいよ新校舎も落成し、実習棟も完成間近と聞いております。未来志向の将来を託すに等しいものかどうか、せめて我々の気分だけでも一新してくれるものと信じておりますが、岡崎方面の小中の一貫教育などの課題も控えております。決して急ぐ必要はありませんが、実現は「ASUたちばな会」の夢かもしれません。ぜひこれの実現のためにも邁進してほしいものです。

学園退職教職員の会（ASUたちばな会）の歩み：

平成23年6月に発起人会を開催しました。

平成23年9月に発起人会により「ASUたちばな会」の総会を開催しました。

あれから、すでに5年が過ぎようとしています。

平成 23 年 1 1 月実施

学園設立 60 周年、工業高校創立 50 周年記念事業に参加。

平成 25 年 1 月実施

愛知産業大学開学 20 周年記念事業に参加

平成 25 年 1 1 月実施

三河高校創立 30 周年記念事業に参加

平成 27 年 7 月より平成 29 年 3 月まで

学園 110 周年寄付金のお願い

毎年、学園広報誌「コミュ」を送付しています。

「生き甲斐」とは

福井 俊彦

昭和 38 年 4 月東海工業高校(現・愛産大工業高校)に採用され 22 年間勤務し、その後東海工業専門学校高等部、名古屋工学院専門学校高等部へ出向、愛産大三河高校に赴任となり、名古屋工学院専門学校専門部の教務部へ出向し、姉妹校の各学校へ講師で派遣と、それぞれの関係の先生方には、大変お世話になり、ありがとうございました。今と違い、波瀾万丈の教員生活でした。

学園の創設者である水野恒治先生を始めとして、草創期の戸田保幸・伊藤喜信・西田真人・掛野知伸・増田数雄の諸先生、そして同じ釜の飯を食べた稲葉・安藤・下村・板倉・面手・高井・佐々木・大島の各先生方がご逝去なさり、ご冥福をお祈りするとともに、時代の移ろいを感じる年齢ともなってきました。

先頃、リオのオリンピックが実施されましたが、平成 32 年には、東京での開催が予定されています。東海道新幹線の走った昭和 39 年には東京でオリンピックが開かれ、亡くなられた稲葉先生と東京の国立競技場で、開会式の前夜祭及び当日の式典を見物したことが、今でも走馬燈

のように浮かんでいきます。嫌な思い出は忘れ、良い思い出のみを胸に秘めて生きることも大切ではないかと痛感しています。

名古屋テレビ・毎週土曜日の午後6時より「人生の楽園」という番組が放映されています。その内容は、定年退職者あるいは早期退職して、田舎に帰り民宿・喫茶店・パン屋さん・ケーキ屋さん・ピザ焼き・炭作り・百姓さん（野菜、果物づくり）蕎麦づくり等々今まで自分がやりたいと思っていたことを、地域住民の助けを受け、仲間入りしていき、成功させたというストーリーです。「人生には楽園が必要だ」と訴えています。丁度夕食時なので、つれあいと一緒に見えています。

やはり人間は、自分の好きなこと・趣味を持ち、上手でなくても、それを一途にやり抜くことに「生き甲斐」が、あると考えます。囲碁・将棋・麻雀・絵画・パソコン・絵手紙・書道・読書・等の文系とゲートボール・テニス・ゴルフ・卓球・野球・サッカー・ラグビー等のスポーツ観戦等ありますが、私は、現在週に2回ほど、卓球仲間と余生を楽しんでいます。高齢の方では90歳近くの人も見えます。特に、小学生や中学生等とやっていると素直に指導を受け入れてくれるので成長も早く、喜びと驚きで楽しみが倍加します。気持ちの面でも若返りの秘訣ではないかと思えます。

雑感

三村 昌勢

退職して早や6年が過ぎました。皆さんお元気でお過ごしでしょうか？

三河高校が開校して2年目の昭和59年に着任しましたが、当時の山の斜面に残る切羽には、朝日が当たってきらきらと光る眩しい輝きが印象的でした。それは雲母の破片に反射しての光景でした。元々この辺りは雲母が取れたらしく、戦時中頃まで採掘していたとのことでした。

所々に採掘の穴が残っており、その穴もかなりの大きさでありました。

開校して間もないころは地域の認知度は低く、皆さん苦勞して学習・生活指導に力を注いでいたように思います。電気科では目玉の資格取得に力を入れ、電気工事士に一年生からチャレンジし、三年時には電験三種合格を目指した者もおりました。普通科では国公立進学を目指してのチャレンジでしたが、後発の感は拭えず、目が出るまでには担当者は苦勞の連続だったことを思い出します。

最近では地域の皆さんにも認知され暖かく歓迎されていることに感謝です。

退職前に心臓のバイパス手術を行いました、定期的に通院のみで、今のところ特に異常はなく、バッサミンを毎朝一錠飲んで養生しています。

退職後は少しでもお役に立てればと思って講師をして過ごしておりますが、年齢と共に身体の衰えを感じている今日この頃です。

数年前にキャンピングカーを購入し、長期休暇時は北海道や九州など、全国を車旅して過ごしておりますが、こんな便利な乗り物はないと気に入っております。特に北海道には4回ほど行きましたが、どのシーズに行っても本土にはない自然の雄大さや美しさ、楽しさが伝わって来て、帰るときはいつも後ろ髪を引かれる思いです。

車だけだと離島に行くチャンスが少なく、ほとんど行けていませんが、昨年小笠原に行ってきました。ここへは飛行機で行けないのが魅力的なのかもしれません。自然が一杯の島でした

近いうちに八重山地方をめぐり、特に屋久島の山登りなどを行い、自然を満喫してきたいと思います。

時節柄、皆様もお身体ご自愛いただきお元気でお過ごしください。

ヤングシルバーとして

横江 嘉明

四月から名古屋高年大学で学ぶことになりました。この学園は名古屋市社会福祉協議会が名古屋市の補助を受けて、昭和 61 年 4 月に開学しました。名古屋市長が学長に就任します。応募資格は名古屋市内に在住する 60 歳以上の人で、修業年限は 2 年です。今年度は 31 期生として、健康で学習意欲のある 578 名が入学しました。

教育方針は高齢者の生きがいづくりと、地域活動の核となる人材の養成とあります。少し古い資料ですが、岩波書店発行の『定年後』によりますと、定年後のライフスタイルは、①職欲旺盛アクティブ派、②趣味一筋派、③女性に多い、日常の中で世話をしながら交流派、④日々若々しく、働く収入は二の次派と、最も多い⑤無事是好日派に分かれるそうです。私は②を選びました。園芸を専攻することにしました。野菜作りや庭木の剪定を我流ではなく、基礎的な知識を得て、実技の基本を習得したいと思ったからです。

ナスについていえば、種蒔きの 2 週間前に苦土石灰、1 週間前に堆肥、化肥、油粕それと熔燐を混ぜて土づくりを行い、植付け後は一番花のすぐ下とその下の側枝を伸ばし、他は切って整枝を行うということを学びました。トウモロコシは花粉が付くように、二筋植えにしなければなりません。またマルチフィルム使って土の表面や株元を覆うことで、土壌の乾燥や病気の発生を防ぎ、雑草の抑制ができることを習いました。

剪定については苦い経験があります。庭木が伸びたので枝の詰め方も聞かずに切っけてしまい枯らしてしまいました。花を観賞する木なら、花芽の形成時期を考えて剪定しなければなりません。花が咲かなくなってしまうです。

学園で仲間として過ごした人たちとの交流は卒業後も続き、藤前干潟、鶴舞公園、堀川等でのクリーン活動、名古屋ウィメンズマラソンのコース整理や給水担当として参加しているといいます。

人生三分法というコトバがあります。自分のために生き、次は家族の

ために生きる。そして人生の最後の季節は社会のために生きるというものです。

私も学園で習得した技術、学園生活で得た人々との縁を活かして、地域社会への奉仕活動に役立てたいと思っています。そして、活動に参加することにより、新たな自分を発見したいと考えています。

事務局より

平成 23 年 6 月に、小倉理事長の発案で、学園への思いを伝える場所を作ることとなりました。5 年後、10 年後に社会とは別のところでゆっくりとお話のできる場所があればと思わないでしょうか。同じ職場、同じ学園内の学校に勤務していたことを懐かしく思う皆さんが集まってそのころの思い出、今現在の学園の状況をお話になってはどうでしょうか。

それが「ASU たちばな会」の設立の思いです。会員の皆さんの中には、別のところで顔を合わせる機会もあると思われませんが、どれだけだったかな・・・懐かしいね！ つまりは同窓会でしょうか。

入会金だけで、会員となります。

皆さんに入会を進めていただけるとありがたいです。

連絡先：法人事務局 業務部 成瀬

E メール：naruse@asu.ac.jp

〒460-0016 名古屋市中区橋 2 - 6 - 1 5

TEL 052-339-2781 FAX 052-339-2782

「学園 110 周年寄付金のお祝い」

記念事業写真集と芳名録、記念事業完成式典に参加できます。(予定)